

第1回年次総会・研究発表大会のご報告

2008. 9. 18

会長 林 昇一

大会企画担当常任理事 榊原研互

大会実行委員長 河合忠彦

国際戦略経営研究学会 第1回年次総会・研究発表大会は、「戦略経営の新展開」という統一論題のもとに、9月13日（土）と14日（日）の2日間、中央大学後楽園キャンパス（5号館、3号館）にて開催されました。それぞれの内容は下記の通りです。

1. 年次総会

1) 審議事項

- ・以下、いずれも学会会則第29-30条に従って9月13日開催の理事会に提出し、その議を経て総会に提出し、承認されました。

(1) 本年度の事業報告および収支決算

- ・事業報告に関しては、添付資料1（『2007年度事業報告』）をご参照下さい。
- ・収支予算

(2) 監査報告

- ・学会会則第31条に従い、大島正克、古川浩一、両監事より「決算報告書は収入支出の状況及び財産の有りを正しく示している」との御報告を頂きました。

(3) 来年度の事業計画および収支予算

- ・事業計画に関しては、添付資料2（『2008年度事業計画』）をご参照下さい。
- ・収支予算

2) 報告事項

(1) 寄付金の受け入れに関して

- ・企業等からの寄付金の受け入れ方法を検討しています。

(2) 学術団体としての登録に関して

- ・学術団体としての登録申請のための努力（例：ジャーナルの発行）をして行きます。

(3) 会員拡大に関して

- ・学会発展の大前提ですので、会員諸氏の一層のご尽力をお願い致します。

(4) 幹事選出

- ・研究会の活性化、ジャーナルの発行のために、研究会の副世話人で理事以外の方々、およびジャーナル編集委員会委員で理事以外の方々（14名）に幹事をお願いすることに理事会で決定致しました（御氏名は、添付資料3（『幹事の選任』）をご覧ください）。

2. 研究発表大会

- 1) 統一論題を「戦略経営の新展開」とし、既存の研究分野を「戦略経営」の視点から総合的に捉え直した研究のあり方や方向性を議論する目的で開催致しました。
- 2) 統一論題の「基調報告」では、大会実行委員長より、「戦略経営」とは、「(狭義の)経営戦略によるマネジメント」を意味するアメリカ型の strategic management とは違って、「(狭義の)経営戦略を中心に製品開発、マーケティング、人的資源管理、その他のファンクショナル戦略を統合的、体系的に展開する strategic management」を意味するものであり、本学会の使命は、その実践を支援するとともに、その基礎となる理論を展開することにあるのではないかとこの主張がなされました。
- 3) 統一論題の「戦略経営とグローバル戦略」、「戦略経営と製品・サービス開発」、「戦略経営と人的資源」、「戦略経営と戦略財務・会計」、「戦略経営と実践」の各セッションではそれぞれにおける今後の研究の方向性、具体的な研究テーマ等についての発表がなされました。
- 4) 記念講演では、ヤマトホールディング株式会社の有富慶二取締役会長をお招きし、「クロネコヤマトの次なるイノベーション」という演題で、ヤマトホールディング株式会社の発展の歴史と今後の展開に関するご講演をいただきました。ビジネス展開の貴重なヒントを伺うことができたと同時に、会員の皆様のご研究の参考指針になったと思われます。



5) 13日に開催された懇親会には多数の会員が出席して相互に交流し、親睦を深めました。



添付資料 1 : 2007年度 (08.1.13-08.9.30) 事業報告

1. 創立総会・会員数

- 1) 創立総会を 2008 年 1 月 13 日に開催し、正式に発足した。
- 2) 会員数 (2008 年 9 月 10 日現在。会費未納者 76 名を除く)
 - ・正会員 198 名
 - ・準会員 40 名
 - ・賛助会員 3 名

2. HP の立ち上げ

- 1) 2008 年 2 月 25 日の理事会で HP を立ち上げる事、およびその作業を (株) ヒューマンシステムに委託することを決定し、実行に移した。(構築費用、維持費等については収支報告参照)
- 2) 2008 年 7 月 4 日初めに構築作業が完了し、運用を開始した。

3. 研究会の発足

1) 経緯

- ・2008 年 2 月 25 日の理事会で運営方法の大枠を決定した。
- ・同年 3 月 10 日に会員に対して、参加希望の研究会についてのアンケート調査を実施した。
- ・同年 5 月の持ち回り常任理事会で最終案を決定し、メールによって理事 (会) の承認を得た上で、『研究会の運営方法について』を会員に送付して、研究会をスタートした。

2) 内容

- ・研究会は、大きくは、論文研究会、実践研究会、中長期研究会の 3 タイプから構成される。(詳細は HP 参照)
- ・各研究会の運営は世話役が中心となっていく。(詳細は、HP 参照)

3) 実績

- ・5 月 22 日の「戦略と知財・法務研究会」を皮切りに、各研究会が 1~3 回研究会を開催した。

4. 学会誌の発行

- 1) 2008 年 2 月 25 日の理事会で学会誌の発行に関する基本方針が承認された。(HP 参照)
- 2) 予算の関係で発行は 08 年度以降とし、07 年度はその準備として委託先の検討を行った。

以上

添付資料 2 : 2008 年度 (08.10.1-09.9.30) 事業計画

1. 年次総会・研究発表大会

1) 第 2 回 年次総会・研究発表大会を次の要領で開催する

- ・統一テーマ：『戦略経営と M&A・アライアンス』
- ・期 日：2009 年 9 月 12 日（土）～13 日（日）（予定）
- ・開 催 校：青山学院大学（予定）

2. 研究会

- 1) 前年度スタートした活動の継続・活発化を図る
- 2) 第 2 回大会の統一テーマ『戦略経営と M&A・アライアンス』に関連するテーマを重点的に取り上げる

3. 学会誌

1) 発行するジャーナルと号数

- ① 収支状況を考えると『活動方針案』で目標とされた 3 誌の発行を現時点で予定するのは困難なので、当面、「査読ジャーナル」2 号の発行を予定し、それについてのみ、予算化する。予算額：1,150,000 円（575,000 円×2 号）。
- ② 収支状況に余裕が生まれた場合には「実践電子ジャーナル」を発行するが、それについては改めて理事会に諮り承認されたら実施する。予算額：170,000 円（2 号）。

2) 発行予定

[2008 年度 (08.10.1-09.9.30)]

A. 査読ジャーナル

- No. 1: 「特集：戦略経営の新展開」＋「自由論題」
- No. 2: 「特集：戦略的人的資源管理」＋「自由論題」

B. 実践ジャーナル

- No. 1: 「特集：戦略的人的資源管理の実践事例」＋「自由報告」
- No. 2: 「特集：BSC の実践事例」＋「自由報告」

[2009 年度 (09.10.1-10.9.30)]（参考）

A. 査読ジャーナル

- No. 1: 「特集：戦略経営と M&A・アライアンス」＋「自由論題」
- No. 2: 「特集：戦略的新製品・サービス開発」＋「自由論題」
- No. 3: 「特集：企業－社会関係と戦略経営」＋「自由論題」

B. 実践ジャーナル

No. 1: 「特集：戦略経営と M&A・アライアンスの実践事例」＋「自由報告」

No. 2: 「特集（1）：戦略的新製品・サービス開発の実践事例」＋「自由報告」

「特集（2）：企業－社会関係の実践事例」＋「自由報告」

以上

添付資料3：幹事の選任

1. 選任理由

- ・研究会およびジャーナル編集委員会の活動の円滑な推進のため

2. 候補者氏名

1) 理事以外のジャーナル編集委員会委員

- 歌代 豊 (明治大学)
- 花枝英樹 (一橋大学)
- 井村進哉 (中央大学)
- 古屋紀人 (IGB ネットワーク株式会社)
- 中村 博 (中央大学)
- 玉木欽也 (青山学院大学)

2) 理事以外の研究会の副世話人

- 田中 洋 (中央大学)
- 北島啓嗣 (福井県立大学)
- 山本寿夫 (LEC 大学)
- 咲川 孝 (新潟大学)
- 太下義之 (三菱 UFJ リサーチ)
- 山下 勝 (青山学院大学)
- 平松庸一 (新潟大学)
- 大島正克 (亜細亜大学)

(注) 学会会則

第11条 本学会に、次の役員をおく

(4) 幹事 30名以内

第13条 (5) 幹事は、第五章に定める委員会に所属し、委員会活動を推進する

役員選任規定

第8条 幹事は、必要に応じて理事会が選任する